

令和7年産 大豆栽培



こよみ

J A 筑紫営農センター (924-1313)
中部 グリーン店 (501-0036)
物流センター (923-8221)
西部 グリーン店 (952-2971)
福岡普及指導センター (806-3400)

項目 月 旬		生育相	主な作業
6	中		●排水作業(弾丸暗渠・明渠の施工) ●堆きゅう肥の施用 ●土壌改良資材の施用 ●耕起整地
	下		
7	上	は種期 は種適期	●種子消毒・は種 ●除草剤散布 ●第1回中耕培土 (本葉2~3枚) ●第2回中耕培土 (本葉4~5枚) ※開花期以降の中耕培土は 収量が低下する恐れがあります。 ※開花期 開花を開始した株が 全体の40~50%程度に達した時期
	中		
	下		
8	上	茎葉・生育期	●病害虫防除 (ハスモンヨトウ)
	中		
	下		
9	上	開花・幼莢期	●病害虫防除 (ハスモンヨトウ・カメムシ類・紫斑病)
	中		
	下		
10	上	子実肥大期	●病害虫防除 (ハスモンヨトウ・カメムシ類・紫斑病)
	中		
	下		
11	上	成熟期	●刈取・乾燥 ●脱粒・乾燥 ●調製
	中		
	下		

■ほ場の選定と土づくり

- ①排水不良田では生育が著しく不良となるので、湿害のない排水良好な水田を選ぶことや弾丸暗渠の励行や転作ほ場の集団化をはかる。
- ②地力増強のため堆きゅう肥(0.5~1t/10a)を施用する。

■施肥基準

(kg/10a)

肥料名	基肥	成分量		
		チッソ	リンサン	カリ
P K 化成40号	30 kg	0 kg	6.0 kg	6.0 kg
豆化成300号	40	1.2	4.0	4.0
ケイカル	100			

- ・麦ワラをすき込んだ場合は、チッソ成分を1.0kg程度増やす。
- ・PHを6.0~6.5に矯正する。(土壌診断によって石灰の投入量を調整する。)
- ・遅播や初期生育が不良の場合は、開花期までにチッソ成分で2kg程度追肥する。

■栽培様式基準

栽培型	播種時期	播種量	条間	株間
		kg/10a	cm	cm
適期播	7月5~20日	5~6	70	15~20
晩播	7月21~31日	8		11~15

■種子の準備

紫斑病予防と鳥害防止のため、キヒゲンを種子に1kgにたいして10gの割合で粉衣する。

■除草剤使用基準

(10a)

除草剤名	使用時期	使用量	備考
エコトップP乳剤	播種直後~ 出芽前	500~600ml	希釈水量100ℓ。 必ず覆土を3cm程度行い 散布する。
クリアターン乳剤		500~800ml	
クリアターン細粒剤F		4~5kg	
大豆バサグラン液剤	生育期 (茎葉処理)	100~150ml	希釈水量100ℓ。 (大豆2葉期~開花前まで)
ポルトフロアブル	生育期 (茎葉処理)	200~300ml	希釈水量50~100ℓ。 (イネ科雑草 3~10葉期)
バスタ液剤	生育期 (畦間処理)	300~500ml	希釈水量100~150ℓ。 (アサガオ(マルバノギ)対策)

■干ばつ対策

開花期、幼莢期に降雨が無くほ場が乾燥した場合、うね溝灌水を行う。

■病害虫防除基準

(10a)

農薬名	薬量 (水100ℓ)	濃度	対象病害虫
ブロフレアSC	25ml~50ml	2,000倍~4,000倍	ハスモンヨトウ
ノーモルト乳剤	50ml	2,000倍	ハスモンヨトウ
スタークル液剤10	100ml	1,000倍	カメムシ類
トップジンM水和剤	100g	1,000倍	紫斑病

ハスモンヨトウ(葉や莢を食害するため収量への影響が大きい。)

- ・白変葉(若齢幼虫集団)が発生したら早急に除去する。
- ・中齢・老齢幼虫には薬剤の効果が劣るので若齢期に防除を行う。
- カメムシ類(不稔や奇形粒が発生。また、青立ちの原因になる。)
- ・幼莢期~子実肥大期の9月中~下旬に防除を行う。

紫斑病(子実に病斑が発生し、検査等級を低下させる。)

- ・種子消毒を必ず行う。
- ・開花後3~5週間の9月中~下旬までに防除を行う。

■収穫・乾燥・調製

- 1 大部分の葉が落ち、莢が褐変し、振れば「カラ・カラ」音がするようになった時収穫する。泥をかまないようにする。
青立株や雑草は汚損粒の原因となるので、刈取前に抜き取る。
- 2 コンバイン収穫でない場合は、刈取後、子実水分が20%以下になるまでは場で乾燥する。(島立干し)
- 3 雨あがり、早朝の脱粒は汚損粒が出やすく等級が下がるのでさける。
- 4 子実水分11.5%~13.5%以下まで乾燥し、調整・出荷。